



胃がん検診 Q&A

Q1.胃がん検診にはどんな種類がありますか？

現在、胃がん検診として一般的なものは、胃内視鏡を用いた検診と、バリウムを使う胃エックス線検診が行われています。国が推奨する対策型検診としては、以前は胃エックス線検診のみが、死亡率減少効果を示す科学的根拠が示されており、内視鏡検診は推奨されていませんでしたが、厚生労働省から示された、がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針の平成 28 年 2 月の改正より、新たに科学的根拠が示されたことより、胃内視鏡検診も対策型検診として推奨されました。

また、近年人間ドック等で、胃がんリスク検診、ABC 検診などと呼ばれる、ヘリコバクターピロリ抗体と血清ペプシノーゲン検査の結果の組み合わせによる、リスク層別化検査が行われていますが、これは胃がんになりやすい人を判別するものであり、胃がんを見つける検査ではありません。

Q2. 胃がん検診はどのように行いますか？

胃内視鏡検診では、内視鏡を用い、食道、胃の内部、十二指腸までの表面の様子を見ます。

胃エックス線検診は、硫酸バリウムと、発泡剤と呼ばれる顆粒を飲み、空気とバリウムで胃内の微細な凹凸や形態の変化を映し出す、二重造影法で、胃の形を見ます。

Q3. 胃がん検診でどれくらいがんがわかりますか？

検診でどれくらいがんがわかるかについては、エックス線検診の感度（がんのあるものをがんと正しく診断する精度）はおおむね 70~80%、特異度（がんでないものを正しくがんでないと診断する精度）は 90%、陽性反応適中度（精密検査が必要

と判断されたうち、本当にがんであった割合)は0.7~2.0%です。内視鏡検診については、まだデータが少ないのですが、新潟市の報告では胃内視鏡検診の感度は96.8%、胃エックス線検診の感度は81.1%との報告があり、鳥取県米子市のデータでも胃エックス線検診に比べて胃内視鏡検診の感度が高かったと報告されています。

Q4. 胃がん検診の利点、欠点は？

胃がん検診の利点は、症状がなくても胃がんを見つけることができる事です。胃がんは早期の段階で見つければ9割の方は治癒が可能です。胃内視鏡検診とエックス線検診の比較については、韓国から国家がん検診データベースに基づくコホート内症例対照研究の報告があり、胃内視鏡検診により57%の胃がん死亡率減少効果を認め、一方エックス線検診による死亡率減少効果は7%にとどまっていたとの報告があります。

エックス線検診の欠点は、エックス線による放射線の被曝がありますが、自然の中で浴びる放射線と同程度なので、健康に大きな影響を及ぼすことはありません。バリウムによる合併症としては、気管への誤飲、バリウムが腸管内で固まることによる腸閉塞などがあり、死亡例も報告されています。

内視鏡検診の偶発症としては、局所麻酔薬によるショック、内視鏡により胃や食道を傷つけて出血したり、穴を開けてしまう「穿孔」が起こる可能性があります。

Q5. ピロリ菌って何ですか、胃がんとの関係は？

ピロリ菌は、胃の粘膜に生息しているらせん形をした細菌です。胃には強い酸(胃酸)があるため、昔から細菌はいないと考えられていましたが、その発見以来、様々な研究から、ピロリ菌が胃炎や胃潰瘍などの胃の病気に深く関わっていることが明らかにされてきました。子供のころに感染し、一度感染すると多くの場合、除菌しない限り胃の中に棲み続けます。ピロリ菌に感染すると、炎症が続きますが、この時点では症状のない人がほとんどです。

この炎症が続くことが、胃がんのできる原因とされ、胃がんの9割の人はピロリ菌陽性です。

Q6 対策型検診の結果とその受診者のピロリ感染診断の情報をどのように関連づけて対応すれば良いのでしょうか？具体的に教えてください。

ピロリ菌検査の単独検査、ペプシノゲン検査の併用法ともに現時点では、死亡率減少効果を検討した研究は認められません。しかし、胃癌の原因として、ピロリ菌が関連していることは明らかであり、今後の長期追跡に基づく評価研究の結果によっては、現在と評価が変わる可能性はあります。ピロリ菌感染患者については、慎重な経過観察が必要です。

Q7. 胃がん検診の対象の年齢は？

胃がんにかかる人の年齢は、以前より高齢化しており、2010年の胃がんの罹患率は、1975年に比べ40～49歳では男女ともに1/3から1/2に減少しています。また同様に死亡率も減少しています。

そのため、現在対策型検診としての胃がん検診の対象年齢は50歳以上になっています。

Q8. 胃がん検診どれくらいの間隔で行えばいいの？

対策型検診として推奨されているのは、胃エックス線検診は毎年、胃内視鏡検診は2年に1回とされています。

[参考文献、出典：有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン 2014年版、対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル]

